一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Histopathologic excision margin affects local recurrence rate: analysis of 2681 patients with melanomas < or =2 mm thick.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1. 有り 2. 無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ10-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	15650644	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	241	
	号	2	
	ページ	326-33	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1. 医学 2. 歯学 3. 看護 4. その他 (1)	
	原本言語	1. 日本語 2. 英語 3. ドイツ語 4. その他 (2)	
	発行年月	2005	
	著者情報		氏名
筆頭著者		McKinnon JG	University of Calgary
その他著者 1		Starritt EC	Sydney Melanoma Unit
その他著者 2		Scolyer RA	同上
その他著者 3		McCarthy WH	同上
その他著者 4		Thompson JF	同上
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	厚さ 2mm 以下のメラノーマ患者において、組織学的切除マージンと局所再発、生存率の関係を検討する		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究		
	セッティング	シドニーメラノーマユニット		
	対象者	1996 年までに診断された 2681 人の厚さ 2mm 以下のメラノーマ患者		
	対象者情報 (国籍)	1. 日本人 2. 日本人以外 3. 国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1. 男性 2. 女性 3. 男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1. 乳幼児 2. 小児 3. 青年 4. 中高年 5. 老人 6. 乳幼児・小児 7. 乳幼児・小児・青年 8. 乳幼児・小児・青年・中高年 9. 乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10. 小児・青年 11. 小児・青年・中高年 12. 小児・青年・中高年・老人 13. 青年・中高年 14. 青年・中高年・老人 15. 中高年・老人 16. 乳幼児・青年 17. 乳幼児・中高年 18. 乳幼児・老人 19. 小児・中高年 20. 小児・老人 21. 青年・老人 22. 年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	切除マージン		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	局所再発	1. 主要 2. 副次 3. その他 (3)
		2	In-transit 再発	1. 主要 2. 副次 3. その他 (3)
		3	生存率	1. 主要 2. 副次 3. その他 (3)
		4		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
		5		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
		6		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
		7		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()
	8		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()	
	9		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()	
	10		1. 主要 2. 副次 3. その他 ()	
	主な結果	<p>フォローアップ期間の中央値は 83.8 ヶ月。局所再発をきたしたのは 2681 人中 55 人 (再発までの中央値 37 ヶ月) であった。120 ヶ月経過した時点での計算上の局所再発率は 2.9% であった。局所再発後の 5 年生存率は 52.8% であった。</p> <p>多変量解析では切除マージンと tumor thickness だけが局所再発の予後規定因子であり (ともに $p=0.003$)、固定した組織上でマージン 0.8cm 未満の症例 (手術時の切除マージン 1cm 未満に相当) を除くと切除マージンは予後規定因子とならなかった。</p> <p>Tumor thickness、潰瘍、部位は生存率に関する予後因子となったが、マージンはそうではなかった ($p=0.49$)。</p>		
	結論	<p>病理組織学的マージンは局所再発の危険率に影響するが、切除マージンが 1cm 以上あれば局所再発の危険因子とならない。</p> <p>切除マージンは患者の生存率には影響しない。</p>		
	備考			

レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） 多変量解析された優れた報告である。